

プログラム説明書

団体名	森の学校		
プログラム名	樹木医と取り組む 学校の木 健康診断		
概要	校庭などで樹勢の衰えた樹木を対象とし、樹木医の見地を交えながら「木の健康状態」を観察し、樹木医が用いるものに準じた診断書と処方箋を作ります。その処方箋にしたがって、樹勢回復の処置を行ないます。		
ねらい	木を生き物としてとらえること、生き物の抱えている問題に気付く目を養うこと、その解決のための行動を考え、実行に移すことを学びます。		
対象者	幼稚園児・小学生・中学生	人数	100名程度まで
実施場所	学校敷地内	実施時間	2時間が望ましいが、1時間も可
学校の準備物	(診断)筆記用具(生徒児童園児各自)・クリップボード (処置)スコップ等・軍手	実施団体の準備物	(診断)診断書、処方箋用紙 (処置)改良資材等
安全上の注意事項	屋外実施が原則のため、暑さ寒さへの配慮が必要と考えられます。樹勢回復処置については、木に大規模な変化を加えるような処置は原則的に行わず、周辺環境の整備(例、土壌改良・雑草の除去・枯枝の除去等)にとどめ、参加者の安全に配慮します。		
雨天時の対応	実施困難と考えられるため、学校運営に支障のない範囲で日程再調整を行ないます。		
アピールポイント	◎木を生き物としてとらえ、生き物のために行動を起こすことの意味を、樹木医という専門職の取り組みの疑似的体験を通して学べます。 ◎処置を施した樹木の「その後」を見守ることで、継続的な観察の目を養います。		

プログラムの進め方

【導入】

- ◎校庭の「最近元気のない木」を全員で観察します。
- ◎専門的な見地を交えて細かく診断し、各自診断書を作ります。
- ◎さらに診断をもとに処方箋を作成します。

【展開】

- ◎作成した処方箋をもとに、「木に元気を取り戻させる」ための処置を行ないます。
- ◎樹体に大規模な変化を加えるような処置は行わず、木の周辺環境との関りに着目し、その整備を中心に行います。学校の担当責任者との事前相談の上でこれを行います。

考えられる処置の例

- ◆根元の土壌改良
- ◆(木にとっての)有害雑草の除去
- ◆生育に支障のある枯枝などの除去
- ◆落葉・雑草を用いた堆肥作り
- ◆周辺立ち入り制限の呼びかけ

【まとめ】

- ◎診断→処方箋→処置の一連の取り組みを通じて、子供たちを取り巻いて、心地よい環境を提供してくれている生き物に目を向け、その生き物にとって「ためになる」行動を起こしたことを確認します。
- ◎その後の継続的な管理や観察につなげます。